

米国の鍼灸大学

米国には 2 万人前後の鍼灸師がおり 60 校近い鍼灸大学があることは前回述べた。鍼灸大学の実態を知れば、米国の鍼灸師像がより鮮明になるかも知れない。そこで今回は鍼灸大学について詳しく解説したい。

一般論を述べるより、1 校を選んで細部まで具体的に紹介したい。取り上げたい大学はいくつもあるのだが、ニューヨークにもある身近な Pacific College of Oriental Medicine (PCOM) について述べることにする。以下の記載内容は学生募集カタログ^(1,2)、ホームページ⁽³⁾、および個人的な見聞に基づいている。

受験するための資格と修得できる資格

PCOM は 1986 年に設立された大手の鍼灸大学である。サンディエゴを本校としニューヨークとシカゴにも学校を持つ。3 校とも学位を授与できる教育施設としてそれぞれの州の認可を受けている。

入学を希望するものは高校を卒業し準学士（短大卒）と同等以上の学歴がなければならない。実際には大学既卒者が大多数を占める。入学願書に必要事項を記載し、出身校の先生からの推薦状を 2 通、志望動機を述べたエッセイ、申し込み手数料などを添えて申し込む。出身大学の成績証明書は PCOM に直送する。面接も行われ合否判定の要素となる。

PCOM は 3 校とも伝統東洋医学修士（鍼灸と生薬を学ぶ）の学位が与えられる修士課程が主体である。ニューヨーク校には鍼灸修士（生薬は深く学ばない）のコースもある。カリキュラムはすべて ACAOM（鍼灸東洋医学認定委員会）（次ページ表 1）の認可を受けているので、これらのコースを無事修了すると NCCAOM（全国鍼灸東洋医学認証委員会）やカリフォルニア州の行う鍼灸師認定試験を受験する資格が得られる。

サンディエゴ校にはさらに上級の博士課程が 2004 年から設けられ、修了者には鍼灸東洋医学博士の学位が与えられる。その他サンディエゴ校には東洋身体療法士、マッサージ技士、マッサージ療法士、ホリスティック健康療法士などの認証コースもある。

修得にかかる期間と学費

1 年間は冬学期（2004 年の場合 1 月 4 日－4 月 17 日）、春学期（5 月 3 日－8 月 14 日）、秋学期（9 月 7 日－12 月 18 日）の 3 学期に別れ、いつからスタートしても良い。伝統東洋医学修士の課程をフルタイムで学んだ場合、終了までに最短で 3 年 8 ヶ月を要する。博士課程は 1 年 8 ヶ月である。カリキュラムは柔軟で、個人の事情に合わせ、より時間をかけて履修することもできるし、職業を持つ人のために夜間や週末にも講義が行われる。

学費は所在地によって多少異なる。伝統東洋医学修士コースの場合、最も安いサンディエゴ校で 4 万 1 千ドル、最も高いニューヨーク校で約 5 万 6 千ドル、他に教材費約 4 千ドルなどが修了までに必要で

ある。日本円にすると計 500－650 万円になる。

表 1 米国の鍼灸関係の団体

団体名	活動内容
米国東洋医学会 AAOM: American Association of Oriental Medicine (旧 AAAOM: American Association of Acupuncture and Oriental Medicine)	米国の東洋医学界を代表する学会。1981 年、米国鍼灸東洋医学会という名称で鍼灸師の団体として設立。NCCAOM と CCAOM の設立を助けた。その後東洋医学全般を代表するよう現在の名称に改称。
全国鍼灸東洋医学認証委員会 NCCAOM: National Certification Commission for Acupuncture and Oriental Medicine	鍼灸師の実力水準を全国で統一的に保証すべく、全国鍼灸師認証試験を実現し管理する組織として 1982 年に設立された。
鍼灸東洋医学大学評議会 CCAOM: Council of Colleges of Acupuncture and Oriental Medicine	米国の鍼灸大学の連合体。鍼灸師教育の水準を各大学の連携により保証しさらに高めることを目的に 1982 年設立された。
鍼灸東洋医学認定委員会 ACAOM: Accreditation Commission for Acupuncture and Oriental Medicine	AAOM と CCAOM によって 1982 年に設けられた委員会。米国教育省の認可を受け、各大学の東洋医学教育カリキュラムの水準を審査し認定する。
米国医療鍼灸アカデミー AAMA: American Academy of Medical Acupuncture	1987 年に設立された、鍼灸専門医コースを修了した医師のみによる学会。
米国医療鍼灸委員会 ABMA: American Board of Medical Acupuncture	2000 年に発足した AAMA 内の委員会で、鍼灸専門医の認証を行う。

教科の内容(1)鍼灸と東洋医学

伝統東洋医学修士コースで学ぶことは大きく 4 つに分類することができる。①鍼灸と東洋医学、②本草学 (Herbology)、③基礎医学、④臨床実習の 4 分野である。

鍼灸と東洋医学の内容は、さらに 4 つに分類できる。「導入」「東洋医学から見た疾病」「経絡と経穴の理論と応用」「その他」の各テーマである。

「導入」においては、東洋医学の歴史、哲学、生理・病理観などの基本を学ぶ。

「東洋医学から見た疾病」では、全疾患領域を 7 つの科目に分け、東洋医学による診断と治療、および現代医学との統合が講義される。

「経絡と経穴の理論と応用」においては、経絡と経穴の解剖学と分類学、鍼を取り扱う技術、頭鍼、耳鍼、整形外科疾患の治療などを学ぶ。

「その他」としては推拿 (Tuina)、太極、気功などの科目がある。

教科の内容(2)本草学

本草学の分野で学ぶことは、「生薬」「処方」「その他」の 3 つに区分できる。

「生薬」関係では、中国生薬療法の歴史に始まり、中国本草書に基づきながら個々の生薬について、ラテン名、ピンイン (中国名)、性味、薬能、帰経、調製、用量、配合、禁忌、鑑定などを学ぶ。鍼灸師認定試験では、与えられた生薬の名称、性味、薬能などを記述する生薬鑑定試験もある。

「処方」においては、伝統中国処方について、その中国名、英語名、処方構成の理論、代表的配合、適応、加減法、さらに現代内科学との統合などを学ぶ。鍼の科目においてもそうだったが、現代医学との統合がかなり意識して教えられていることは注目に値する。

「その他」としては、東洋的養生、傷寒論などの科目がある。

ここで処方名について触れたい。鍼灸師の認定試験でも処方名は中国名と英名で出題され、鍼灸師を目指す米国人は必ずそれを覚える。そのため米国では、例えば葛根湯は *Ge gen tang* ないし *Pueraria Decoction* として通用している。すなわち、日本から *Kakkon-to* の英語論文が報告されても、大多数の東洋医学に関心を持つ米国人にとって、それが何を指すのか直ちに伝わらないのである。事情は欧州でも同じことで、これは漢方にとって実に深刻な問題である。漢方が国際化するために克服すべき課題はいくつもあるが、処方名の国際標準化は最も基本的で重要な課題の一つであろう。

教科の内容(3)基礎医学

東洋医学の実践には現代医学の理解は必須であるとされており、学生は次のような科目を学ぶ。

生物学、生化学原理概説、医学術語学、解剖学 1、2、3、人体生理学、整形外科的神経学的評価 1、2、医学的法的報告書作成、病理生理学 1、2、臨床科学 1、2、身体検査、薬理学、臨床カウンセリング 1、2、3、栄養学、心肺蘇生術・応急処置、臨床研究のデザインと統計学。

このうち臨床カウンセリングについて説明しておく。米国の補完代替医療においては、人間は身体・精神・魂 (*body, mind, spirit*) の 3 つの相を持つとする考え方が行き渡っている。精神と魂の違いはわかりにくいところであるが、平たく言えば、心や頭脳の動きのうち意識化されうる部分、あるいは心理的な面が「精神」で、意識化しにくい部分、あるいは実存的な面が「魂」であると言えるかも知れない。

病んだ人を癒すには身体・精神・魂のそれぞれの水準で対応が必要である、というのが補完代替医療の基本的な考え方である。そして患者の精神と魂にアプローチするための重要な技術を習得するのがこれらの科目である。

筆者が以前 *PCOM* ニューヨーク校の附属クリニックを患者として受診したとき、次のような経験をした。問診の中でインターン鍼灸師から「現在の自分の感情 (*emotion*) を一言で言えば何ですか」と問われ、そこから思いがけず会話がふくらんだ。毎日瞑想の時間を持つよう示唆され、治療の終了後には一種のカタルシスを覚えた。その後も受診のつど瞑想の継続を勧められ、精神と魂のケアがかなり意識的に行なわれていることを実感した。

教科の内容(4)臨床実習

臨床実習には大きなウェイトが置かれ、学生は卒業までに附属クリニックなどにおいて、臨床アシスタントとして 400 時間、臨床インターンとして 600 時間の臨床経験を積むことになっている。

学生は最初の 4 学期にわたり臨床の基本を学び、学内試験を受けて合格すると臨床アシスタントとなり初めて患者に接する。臨床アシスタントは上級者の監督の下で、侵襲性の少ない灸などの治療を手伝う。さらに 4 学期間アシスタント経験を積んで、再び学内の試験を経て今度は臨床インターンとなる。臨床インターンは指導教官の監督の下で実際に鍼灸治療を行う。

いずれの学校にも附属クリニックが設置され、臨床教育の場として重要な役割を果たしている。インターンによる治療費は一般の開業鍼灸師よりかなり割安に設定されているため、患者にとってもありがたい。また地元の病院とも連携がとれており、外部病院でインターンを行ったり、研究に参加したり、学生は様々な仕方で現代医療との統合の場に参加することができる。

卒後教育と啓蒙活動

鍼灸の啓蒙と卒後教育のために *PCOM* は様々な活動を行っている。毎年開催される『パシフィック・

シンポジウム』はその一つで、4 日間にわたる本格的な東洋医学シンポジウムである。学生にとっては専門家と触れ職業意識を養う機会となり、鍼灸師にとっては重要な卒後継続教育の場となっている。

また PCOM は 2003 年から『ジャーナル・オブ・チャイニーズ・メディシン』誌の共同発行者となった。これは 1979 年イギリスで創刊された季刊の東洋医学誌で、中国中医研究院発行の『中医雑誌』の論文を英訳して掲載するなど、英語圏に東洋医学を伝える重要な役割を果たしている。

さらに PCOM は『オリエンタル・メディシン』というタブロイド版の新聞を年 2 回、2 万 5 千部発行し、これは鍼灸師や関連する人々に配布されている。

米国における漢方の担い手

以上、PCOM を例にとって鍼灸大学の概要を解説した。中にはもちろん PCOM に固有の事柄も含まれているが、米国の鍼灸大学とはどのようなものか、大まかな印象を持って頂ければ本稿の目的は達したと言える。

述べたごとく、米国の鍼灸師とは、一般大学を終えた後さらに 3-4 年の歳月と高い学費を費やし、東洋医学を自分の職業にしようとした人々である。実力ばかりでなく、その意欲や信念のほども察することができる。

この人々の力により米国の鍼灸は目覚しく成長し、いまや米国のヘルスケアの一翼に確固とした地位を占めるようになった。今後もますます普及し、鍼灸師の社会的な影響力も一層大きくなることが予想される。

日本式鍼灸は、先駆者の人々の並々ならぬ努力により、わずか 1 世代の間に米国の鍼灸界に広まり、独特の高い評価を得るに至った。日本漢方は同様に国際性を身につけ、米国に根を下すことができるだろうか。

現実を見れば、自ずと方向性が見えて来るように思われる。米国において誰にも先駆けて漢方を受け入れ、最も良く漢方の価値を理解し、漢方を知らない一般の人々や医師に漢方の良さを啓蒙し、米国における漢方治療の本流を構成してゆくのは、おそらく現在鍼灸に携わっている人々であろう。

この人々が漢方療法を行えるよう、日本の漢方製剤を米国に流通させること。そして日本の漢方界がこの人々と強い絆を築くこと。それなくして米国で漢方を広めることができるとは、とうてい思えないのである。

(謝辞)

「米国における鍼灸」をまとめるにあたり、ミュンヘン大学医史学研究所長のポール・ウンシュルト教授、学校法人後藤学園理事長の後藤修司先生、(株)ホーム・リング商会社長の竹本一洋様、安井医院院長の安井廣迪先生より丁重なアドバイスを頂戴しました。ここに厚く御礼申し上げます。

参考

- (1) Pacific College of Oriental Medicine. Catalog Part 1. Academic Years Fall 2003-2004
- (2) Pacific College of Oriental Medicine. Academic Years Fall 2004-2005 Part Two Academic Policies and procedures v2.1 (September 1, 2004)
- (3) Pacific College of Oriental Medicine. <http://www.pacificcollege.edu/> December 2, 2004